朝日カルチャーセンター
朝日JTB・交流文化塾　通信講座「短歌教室」添削用紙

申し込み教室
1馬場教室　2佐佐木教室　3高野教室　4岡井教室　5「草木」教室　6今野教室　7はじめての短歌

（必ず楷書で。申し込み教室名、男女別、かな遣いの新旧別は○で囲んで下さい）

受講番号

氏名　会社員

かな遣い　新　旧

評価　◎　○　△

ふりがな
君を待つ雨夜の静寂（しじま）
つ い ば む

〈一首の背景〉
春の嵐の夜、待ち人を迎え入れる準備が全て終わってしまい、手もちぶさたでそこおいた苺に手を出してしまった。

講師講評欄

ストーリードラマの感覚で、読ませる作品に仕上がっています。「雨夜」という伝統的・情緒的な語を用いて時間・天候を入れ、舞台背景を明確にした点も、良かったと思います。また「ついばむ」という鳥の動作を比喩的に用いた点にも工夫があります。

評価　◎　○　△

春愁ひ枕に顔を埋めては七も夫（ひと）の香をたぐり寄せたし

〈一首の背景〉
亡くご主人が使そいた枕を大事につかい、思い出に寄り添って生きる奥さんを見て。

講師講評欄

他人の体験を歌っている作品ですが、このままでは作者自身の事に読まれてしまいます。作者以外を主語とする場合は、作中でそれとわかるような仕掛けが必要です。また、「愁ひ」「枕に顔を埋めて」「亡き」…と来ると、言葉が揃いすぎてやや演歌調になります。

評価　◎　○　△

上弦の月を見守る幼子が逃げた兎の行方案ずる

〈一首の背景〉
近所の親子の会話。通りで立ちどまる親子、子どもが月を指さして二羽のウサギがどこにいったのか親に問いかけている。

講師講評欄

取材が成功した作品で、メルヘン的なポエジーが持ち味です。幼子の話に共感する作者の柔らかい童心が伝わってきます。満月にウサギ、だと型どおりですが、上弦の月にした点に工夫があります。「見守る」の部分の表現を、もう少し考えたいですね。

総評

一首目。時間、天候を入れることで、歌の世界がイメージ豊かに広がりました。二首目。〈亡き夫（つま）の枕を今も使ひつつ追憶の中にまどろむ人か〉等々。俗っぽくならないように、表現を少し抑えて。三首目。上句「上弦の月を見上げて幼子は……」。

監修者印　添削者印

■■ 記入方法は裏面をご覧下さい

添削結果について

《評価の記号》　良い作品の順に「◎」「○」「△」「無印」。

《添削記号》　。。。。。＝良い表現　＿＿＿＝欠点

※注　返送の際の宛先となる住所、氏名欄が裏面にありますので、必ずご記入願います。